

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	キッズボンド佐千原			
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 20日		～	令和8年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 20日		～	令和8年 1月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	9名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 10日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職と研修体制(本部との連携) ・スーパーバイザー、社内の専門職チーム(運動・言語・心理)、コーディネーターチームと連携し、日常の支援へ専門的視点を適切に反映。定例研修では障がい特性に加え、法令やメンタルヘルスも継続的に学ぶ環境を整えている。	・スーパーバイザー、専門職、コーディネーターチーム同席のケース検討を実施し、方針を次回支援計画へ反映している。 ・実地研修とオンライン研修を併用し、月2回以上の研修機会を確保。記録している。 ・発達障害外来で使う検査の大半を自社実施できる体制を確立している。	・年間研修計画を「障害の基礎知識/法令/メンタルヘルスケア/管理者研修」の4領域で編成し、研修→現場転移をセットで定着化している。 ・困った時の専門家への相談ラインを確保。早期にヒアリング、ケース検討の仕組みを確立している。

2	記録の徹底 <ul style="list-style-type: none"> 受け入れ前ミーティング時の議事録を作成し、職員間で共有している。 支援目標に沿った内容で個別記録をとっている。 5領域を意識しながら行事計画書を作成し、実行後、振り返っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 受け入れ前ミーティングでは、職員の体調確認、送迎確認、支援内容（注意点など）を確認している。 個別記録から、支援目標の確認や定期モニタリングの計画に活用している。 支援の方向性を具体化し、個別支援計画に取り入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 体制の周知と迅速・適切対応を徹底している。 月イチのヒヤリハット報告を義務化し、改善すべき点や反省を修正して、職員間で共有している。
3	親子イベント、茶話会の開催 <ul style="list-style-type: none"> 年に3回の親子イベント（きょうだい参加あり）を行っている。 年に2回の茶話会をしている 	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めに年間計画を配布している。 行事内容を前月にプリントでお知らせしている。 食育や運動など、偏らない活動を取り入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 送迎時やお迎えの時に、お声掛けしている。 行事内容等のお知らせを前々月にプリント配布ができるようにしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流機会が少ない。	・町内会や子供会と連携し、「桃花祭」「ごみゼロ運動」に参加しているが、事業所主催の「夏祭り」の参加がない。	<ul style="list-style-type: none"> 町内会や子供会に事業所の活動内容を知ってもらうようキッズボンド通信等を配布していく。（了承を得てから） イベントのお知らせを、2,3ヶ月前に伝えていく。
2	保育所や認定こども園、幼稚園との交流ができていない。	・知ってもらう。	<ul style="list-style-type: none"> 事業所主催のイベントのプリント設置をお願いして、交流できるよう努めていく。
3			